

安達太良山

レベル	対象範囲	警戒事項を上げる基準等	警戒事項を下げる基準
5	居住地域及びそれより火口側	(避難への上げの基準) 居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される。 ・大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流が居住地域まで到達する可能性 ・噴火活動の拡大等により、大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流が居住地域まで到達する可能性	(入山規制への下げ基準) 左欄の現象が見られなくなるなど観測データに低下が認められた場合には、活動状況を勘案しながら、必要に応じて火山噴火予知連絡会での検討結果も踏まえ、総合的に判断する。
		(避難準備への上げの基準) 居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす噴火が発生あるいは発生する可能性が高まってきていると予想される。 ・大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流が居住地域の近くまで到達する可能性 ・噴火活動の高まり等により、大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流が居住地域の近くまで到達する可能性	
3	火口から居住地域近くまでの広い範囲の火口周辺	(入山規制への上げの基準) 沼ノ平火口の周辺に影響を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される。 ・中規模の噴火が発生あるいはその可能性、爆風(サージ)を伴うこともある ・噴火に伴う馬の背崩壊あるいはその可能性 ・沼ノ平火口内の広い範囲で大きな噴石が飛散 ・噴気活動の活発化(高さ100m以上) ・GPSで明らかな地殻変動が見られる ・麓の地域で有感となる火山性地震が発生	(火口周辺規制への下げ基準) 左記基準に達しない活動が概ね1か月程度続いた場合
2	火口から少し離れた所までの火口周辺	(火口周辺規制への上げの基準) 沼ノ平火口内に影響を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される ・沼ノ平火口内で大きな噴石が飛散 ・泥、硫黄等の小規模な噴出 ・噴気活動がやや活発化(高さ300m程度) ・小規模な火山性微動の発生 ・火山性地震の活動活発化 ・沼ノ平火口底での地中温度の上昇 ・全磁力観測での明らかな沼ノ平地下の昇温傾向	(平常への下げ基準) 左記基準に達しない活動が概ね1か月以上続いた場合
1	火口内等	・噴気、泥等のごく小規模な噴出 ・火山性地震の発生はわずか	平常での噴火予報発表基準

注1)ここでいう「大きな噴石」とは、主として風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きさのものとする。

注2)これらの基準は目安とし、上記以外の観測データ等も踏まえ総合的に判断する。

岩手山

レベル	当該レベルに上げる判定基準	当該レベルから下げる基準
5	・火砕流、融雪泥流、溶岩流の発生 ・火山性地震及び火山性微動の多い状態が継続 ・1000mを超える有色噴煙を確認	(レベル4への下げ基準) 上記基準に達しない活動が概ね10日続いた場合
4	・山頂火口付近、山腹への火砕流や融雪泥流を確認した場合 ・火山性地震、火山性微動、及び有色噴煙等の表面現象の状況から噴火現象の高まりが想定される場合	(レベル3への下げ基準) 上記基準に達しない活動が概ね1週間続いた場合
3	・小規模な噴火を確認した場合 ・噴火現象に継続性が見られた場合 ・200mを超える有色噴煙及び噴煙量の増加 ・火山性地震が多発(100~200回/日以上) ・有感地震の増加(1~5回/日以上) ・継続時間のやや長い明瞭な火山性微動の発生 ・他機関・大学のGPS等地殻変動データの異常継続	(レベル2への下げ基準) 上記基準に達しない活動が概ね10日続いた場合
2	・大地獄谷付近で極小規模な噴火を確認した場合 ・火山性地震が増加(50回/時、又は100回/日) ・火山性微動の発生 ・200mを超える噴気及び噴気量の増加 ・他機関・大学のGPS等地殻変動データに異常発生	(レベル1への下げ基準) 上記基準に達しない活動が概ね10日続いた場合
1	・火山性地震、低周波地震は発生するが少ない ・噴気量少ない ・長期的な地殻変動は見られることがある	

*レベルの判定は、各項に示されている判定基準をすべて達した場合に行なわれるわけではなく、現れている現象を総合的に検討して判断する。

*また、レベル下げについても概ねの基準を示しており、現象を総合的に検討して判断する。

秋田駒ヶ岳

レベル		レベル判定基準	レベル下げの判定基準
5	北部カルデラ	<ul style="list-style-type: none"> ・噴火に伴い火砕流が発生し、カルデラから火砕流の流出が予想された場合。 ・噴火に伴い融雪型火山泥流が発生し、カルデラから融雪型火山泥流の流出が予想された場合。 ・非常に規模の大きな噴火により、噴煙柱崩壊型の火砕流などによる融雪型火山泥流の発生が予想された場合。 ・継続した噴火で溶岩流がカルデラ内から流出し、溶岩流による融雪型火山泥流が居住地域近くまで予想された場合。 	(レベル4への下げ基準) ※A 左記基準に達しない活動が概ね1ヶ月続いた場合
	南部カルデラ		
4	北部カルデラ	<ul style="list-style-type: none"> ・噴火に伴い噴石が居住地域の近くまで到達すると予想された場合。 ・噴火に伴い火砕流が発生し、カルデラ縁付近まで到達する恐れがある場合。 ・噴火に伴い融雪型火山泥流が発生し、カルデラ縁付近まで到達する恐れがある場合。 ・継続した噴火で溶岩流がカルデラ内から流出し、溶岩流による融雪型火山泥流の発生が予想された場合。 	(レベル3への下げ基準) 左記基準に達しない活動が概ね1ヶ月続いた場合
	南部カルデラ		
3	北部カルデラ	<ul style="list-style-type: none"> ・噴火による影響が火口からおおよそ2km以内。 ・北部カルデラから噴火した場合、または、噴火の発生が予想された場合。 【八合目小屋までは1kmもなく、北部カルデラからの噴火に伴う噴石では、登山者などへ被害を及ぼす恐れがある。また、避難経路も限られ事前の入山規制等が必要である。】 ・噴火に伴いカルデラ内で火砕流が発生(確認)した場合。 ・噴火に伴いカルデラ内で融雪型火山泥流が発生(確認)した場合。 ・噴火に伴いカルデラ内での溶岩流出が発生(確認)した場合。 ・カルデラ直下浅部での地震活動が活発化した場合。やや深い所での地震活動が活発化すると共に、震源が浅部へ移動し始めた場合。 ・活発な噴気活動(高さ50m以上)が観測された場合。 ・カルデラや山体でのGPS観測で急激な地殻変動(浅部での活動)が観測された場合。 ・火山性地震が多発(100~200回/日以上) ・有感地震の増加(1~5回/日以上) ・継続時間のやや長い明瞭な火山性微動の発生 ・GPS等地殻変動データの異常が現れる 	(レベル2への下げ基準) 上記基準に達しない活動が概ね1ヶ月続いた場合
	南部カルデラ		
2	北部カルデラ	<ul style="list-style-type: none"> ・北部カルデラからの噴火は、全て「レベル3」以上とする。 【影響範囲の約500m以内に登山道があり、影響範囲1km内に八合目の小屋(バスの発着所)がある。登山者の安全確保のため「レベル3」とする。】 ・噴火による影響(噴石)が火口から500m以内。 ・新たな噴気、広域的な噴気、地熱による植生の枯れが見られ始めた場合、又、定期的に数十メートルの噴気が観測され始めた場合。 ・山麓におけるGPS観測で地震回数の増加と共に、広域的な地殻変動(やや深い所での活動)が観測され始めた場合。カルデラや山体でのGPS観測で局所的な地殻変動(浅部での活動)が観測され始めた場合。 ・地震活動や地熱活動に変化が現れ、地磁気、全磁力、重力観測等でも変化が現れた場合 ・火山性地震が増加(50回/時、または100回/日) ・火山性微動が発生 ・GPS等地殻変動データの異常発生 ・その他の観測データに変化が現れる。 ・カルデラ内で火砕流や融雪型火山泥流の発生が確認された場合は「レベル3」とし、その後の状況により「レベル2」へ下げる。 	(レベル1への下げ基準) 左記基準に達しない活動が概ね1ヶ月続いた場合
	南部カルデラ		
1		<ul style="list-style-type: none"> ・女岳北側で弱い噴気活動が見られるが、南部カルデラに目立った表面現象はない。 	

噴火による影響とは、噴石、火砕流、融雪型火山泥流により、現象が始まってから避難までの時間的な余裕がほとんどなく生命に対する危険性が高い火山現象による影響。

※A地域毎の部分解除については、火山防災協議会(仮称)あるいはそれに代わる機関において協議される。

秋田焼山

レベル	当該レベルに上げる判定基準	レベルを下げる基準
5	<ul style="list-style-type: none"> ●大規模噴火の発生 ●噴火に伴う融雪型火山泥流が居住地域まで到達、あるいは切迫している ・積雪の少ない時期の融雪型火山泥流の流下距離の増大 ・積雪の多い時期の融雪型火山泥流発生のおそれ ・多量の噴煙を連続的に噴出するなど噴火活動がさらに活発化 	(レベル3への下げ基準) 左記基準に達しない活動が概ね1ヶ月続いた場合。必要に応じて火山噴火予知連絡会等での検討結果も踏まえ総合的に判断する
4	<ul style="list-style-type: none"> ●大規模噴火の発生の可能性 ●噴火に伴う融雪型火山泥流が発生し、噴火がさらに継続すると居住地域まで到達すると予想される。 ・積雪の少ない時期の融雪型火山泥流発生またはそのおそれ ・積雪期における次の現象の発生 ・溶岩ドームの発現 ・活発な地震活動が継続し、さらに振幅が増大 ・山体膨張を示す顕著な地殻変動が継続あるいは加速 ・多量の噴煙を噴出するあるいは火口から2kmを超えて噴石が頻繁に飛散する噴火の発生など噴火活動が活発化 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ●中規模の噴火(噴火による影響(噴石)が少なくとも火口から概ね2km以内)が発生、あるいは発生が予想される ・火砕流が発生する可能性が高まる ・火山性地震がさらに増加(300回/日程度以上)。振幅の大きな地震の増加が観測される ・振幅の大きな低周波地震、火山性微動の増加 ・火口内で活発な噴気活動が継続し、噴気地帯が拡大 ・地熱活動が活発化。地熱地帯が拡大 ・山体膨張を示す地殻変動をGPS・傾斜計などで観測 	(レベル2への下げ基準) 左記基準に達しない活動が概ね1ヶ月続いた場合
2	<ul style="list-style-type: none"> ●小規模の噴火(噴火による影響(噴石)が火口から概ね1km以内)が発生、あるいは発生が予想される ・火山性地震が増加(50回/日程度以上) ・振幅の小さな低周波地震、火山性微動が頻発 ・噴気活動が活発化。勢いのある噴気の高さが300m程度以上 ・地熱活動が活発化し火口底などで新たな地熱異常が発生 	(レベル1への下げ基準) 左記基準に達しない活動が概ね1ヶ月続いた場合
1	<ul style="list-style-type: none"> ・火山性地震の発生は少ない(30回/時かつ50回/日程度以下) ・噴気活動は見られるが勢いのある噴気の高さは100m程度未満 	

吾妻山

レベル	当該レベルに上げる判定基準	当該レベルから下げる基準
5	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の市街地まで噴石等の影響がある ・大規模な泥流が発生する ・火山灰による影響が広範囲におよぶ ・高さ3000mを超える有色噴煙を確認 ・顕著な地殻変動が継続 	(レベル4への下げ基準) 上記の基準に達しない活動が概ね10日続いた場合
4	<ul style="list-style-type: none"> ・噴石等が居住地域(5km程度)まで飛散する可能性大 ・山腹への火砕流や融雪泥流を確認した場合 ・火山灰による影響範囲が広がる ・顕著な地殻変動が継続 ・居住地域で有感地震が発生 	(レベル3への下げ基準) 上記の基準に達しない活動が概ね1週間続いた場合
3	<ul style="list-style-type: none"> ・噴火の発生、小規模な泥流が発生 ・噴石等が大穴火口周辺に飛散する ・火山性地震の増加(200回以上/日) ・振幅の大きな火山性微動が継続発生(5回~10回以上/日) ・現地(浄土平付近)有感地震の増加 ・高さ300mを超える有色噴煙及び噴煙量の増加 ・明瞭な地殻変動を観測 	(レベル2への下げ基準) 上記の基準に達しない活動が概ね10日続いた場合
2	<ul style="list-style-type: none"> ・大穴火口で微少な単発的噴火 ・噴気量の増加 ・火山性地震の増加(100回以上/日) ・火山性微動の発生 ・現地(浄土平付近)有感地震の発生 ・地熱地帯の顕著な地温上昇 	(レベル1への下げ基準) 上記の基準に達しない活動が概ね10日続いた場合
1	<ul style="list-style-type: none"> ・噴気量少ない ・火山性地震の発生(20~30回以下/月) ・長期的な地殻変動が見られることがある 	

*レベルの判定は、各項に示されている判定基準をすべて達した場合に行なわれるわけではなく、現れている現象を総合的に検討して判断する

*また、レベルの下げについても、概ねの基準を示しており、現象を総合的に検討して判断する。

磐梯山

レベル	レベル判定基準	レベルを下げる基準
5	<ul style="list-style-type: none"> ●大規模噴火の発生 ●噴火に伴う融雪型火山泥流が居住地域まで到達、あるいは切迫している ・噴火活動がさらに活発化。噴火規模がさらに拡大 ・活発な地震活動が継続し、山麓の地域で有感となる火山性地震が頻繁に発生 ・山体膨張を示す急激な地殻変動が継続 	(レベル3への下げ基準) 左記基準に達しない活動が概ね1ヶ月続いた場合。必要に応じて火山噴火予知連絡会等での検討結果も踏まえ総合的に判断する
4	<ul style="list-style-type: none"> ●大規模噴火の発生の可能性 ●噴火に伴う融雪型火山泥流が発生し、噴火がさらに継続すると居住地域まで到達すると予想される。 ・噴火活動が活発化。噴火規模が拡大 ・活発な地震活動が継続し、山麓の地域で有感となる火山性地震が増加 ・山体膨張を示す顕著な地殻変動が継続 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ●中規模の噴火(噴火による影響(噴石)が火口から概ね3km以内)が発生、あるいは発生が予想される ・火山性地震がさらに増加(300回/日程度以上)。振幅の大きな地震の増加と、山麓の地域で有感地震が観測される ・振幅の大きな低周波地震、火山性微動の増加 ・火口内で活発な噴気活動が継続し、噴気地帯が拡大 ・地熱活動が活発化。地熱地帯が拡大 ・山体膨張を示す地殻変動をGPSなどで観測 	(レベル2への下げ基準) 左記基準に達しない活動が概ね1ヶ月続いた場合
2	<ul style="list-style-type: none"> ●小規模の噴火(噴火による影響(噴石)が火口から概ね1km以内)が発生、あるいは発生が予想される ・火山性地震が増加(50回/日程度以上) ・振幅の小さな低周波地震、火山性微動が頻発 ・噴気活動が活発化。噴気の高さは300m程度以上 ・地熱活動が活発化し火口底などで新たな地熱異常が発生 	(レベル1への下げ基準) 左記基準に達しない活動が概ね1ヶ月続いた場合
1	<ul style="list-style-type: none"> ・火山性地震の発生は少ない(30回/時かつ50回/日程度以下) ・噴気活動は見られるが噴気の高さは300m程度未満 	

注1) ここでいう「噴石」とは、主として風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きさのものとする。

注2) これらの基準は目安とし、上記以外の観測データ等も踏まえ総合的に判断する。

注3) ここでいう「火口」とは、銅沼付近の旧火口と沼の平火口をいう。